

2024年 東京都のHIV感染者・AIDS患者、梅毒患者の動向及び 検査・相談事業の実績

2024年のトピックス

1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

- (1) HIV感染者及びAIDS患者を合わせた報告数は年々減少傾向にあったが、コロナ禍後、横ばい傾向にある。一方でAIDS患者が2023年から増加傾向にある（図-1）。
- (2) 国籍、性別報告数は、日本国籍男性が231件と最も多いが、2022年以降、横ばい傾向にある（図-2）。
- (3) 推定感染経路別報告数は、性的接触によるものが232件で全体の80.0%、男性同性間性的接触によるものは、この10年間で最も少なく69.3%だった。異性間性的接触及びその他・不明は前年より増加し、それぞれ10.7%、20.0%だった（図-3）。
- (4) 年代別の割合は、HIV感染者は約4割が20歳代、AIDS患者は約3割が30歳代が多かった（図-4）。

2 保健所等における相談・検査体制

- (1) 電話相談件数は、2022年、2023年と増加していたが、2024年は10,703件と、前年から407件減少した（図-5）。
- (2) HIV検査件数は26,377件で、前年と比べて2,684件増加した。検査機関別では、全て前年より増加した（図-6）。都内全体の陽性率は0.31%と前年より減少した（図-7）。
- (3) HIV検査件数は全体では20歳代、30歳代が多く、男性は30歳代、女性は20歳代が多い（図-8）。

3 東京都の梅毒患者の発生動向

- (1) 梅毒の患者報告件数は、3,760件で前年より59件増加し、4年連続で増加している（図-9）。
- (2) 推定感染経路別では、異性間性的接触が多く男性が前年より増加し、女性は減少した。同性間性的接触の男性は異性間接触より少ないが、600件程度で推移している（図-10）。
- (3) 男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多い状況は変わっていない（図-11）。
- (4) 女性の性風俗産業の従事歴有は、この3年間50%前後で推移している。一方男性の風俗産業利用歴有は、30%前後で推移している。不明・その他は36.6%であった（図-12）、（図-13）。

本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、2024年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。
また、図表中では、東京都新宿東口検査・相談室を新宿東口、東京都多摩地域検査・相談室を多摩地域と記載する。
なお、2020年～2023年については、検査縮小や一時休止等、新型コロナウイルス感染症の影響がある。

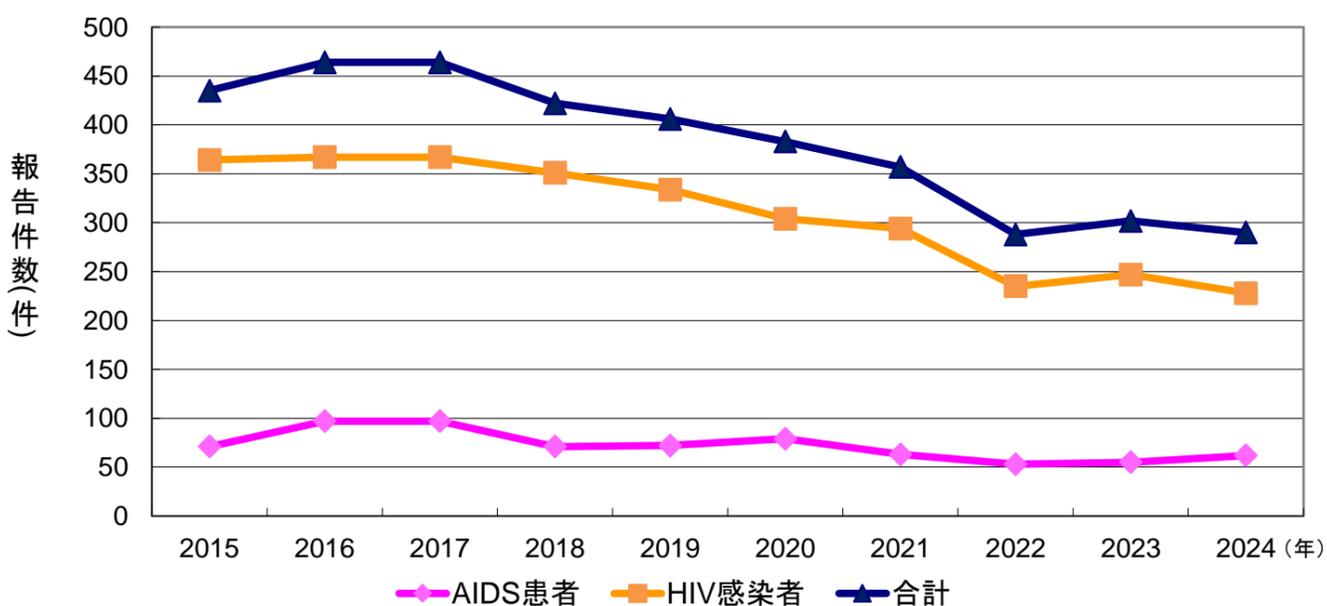
1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

(図-1)

HIV感染者及びAIDS患者の報告数の推移 (過去10年)

ひとくちメモ

HIV感染者：HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染しているが、AIDSを発症していない状態。



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	435	464	464	422	406	383	357	288	302	290
HIV感染者	364	367	367	351	334	304	294	235	247	228
AIDS患者	71	97	97	71	72	79	63	53	55	62

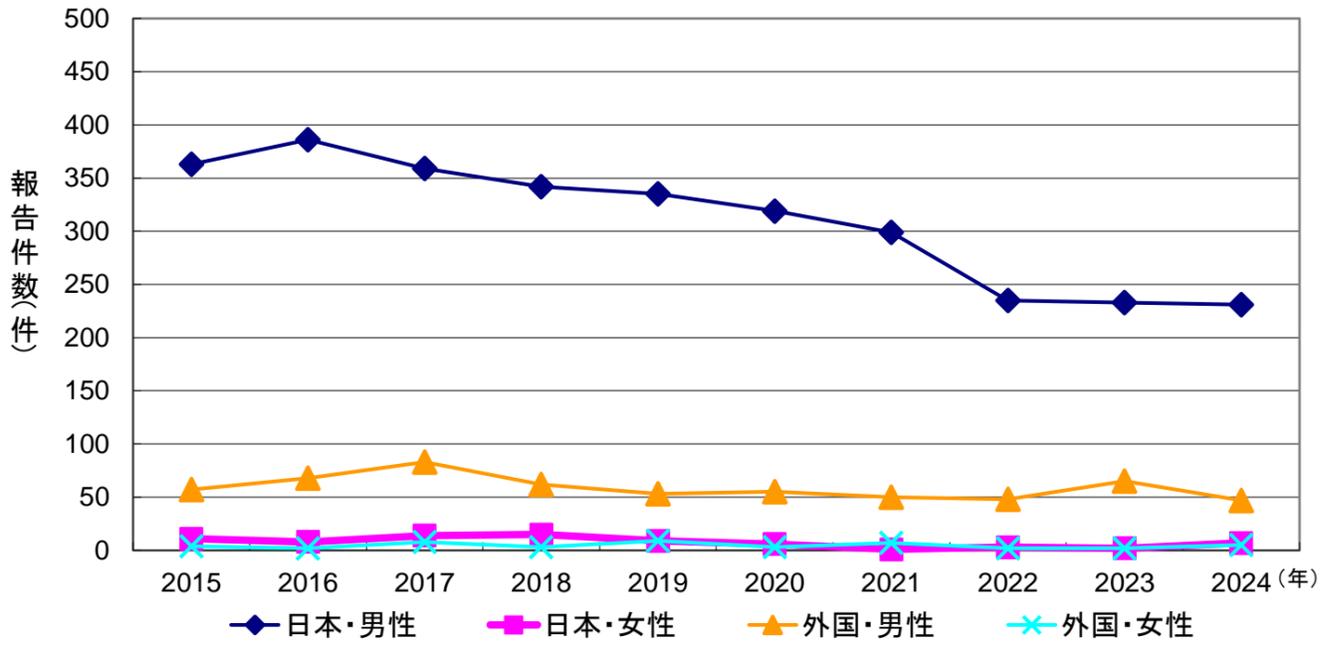
HIV感染者及びAIDS患者の合計は、前年より12件減少し290件だった。HIV感染者新規報告数は前年より19件減少し228件であり、AIDS患者新規報告数は前年より7件増加し62件だった。

(図-2)

HIV感染者及びAIDS患者合計の国籍・性別報告数の推移(過去10年)

ひとくち
×E

AIDS患者：
HIV感染により免疫力が低下し日和見感染症や悪性腫瘍等(23指標疾患)が認められた状態です。
HIV感染後未治療の場合、数年~10数年でAIDSを発症すると言われています。



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
日本・男性	363	386	359	342	335	319	299	235	233	231
日本・女性	11	8	14	15	9	6	1	3	2	7
外国・男性	57	68	83	62	53	55	50	48	65	47
外国・女性	4	2	8	3	9	3	7	2	2	5
合計	435	464	464	422	406	383	357	288	302	290

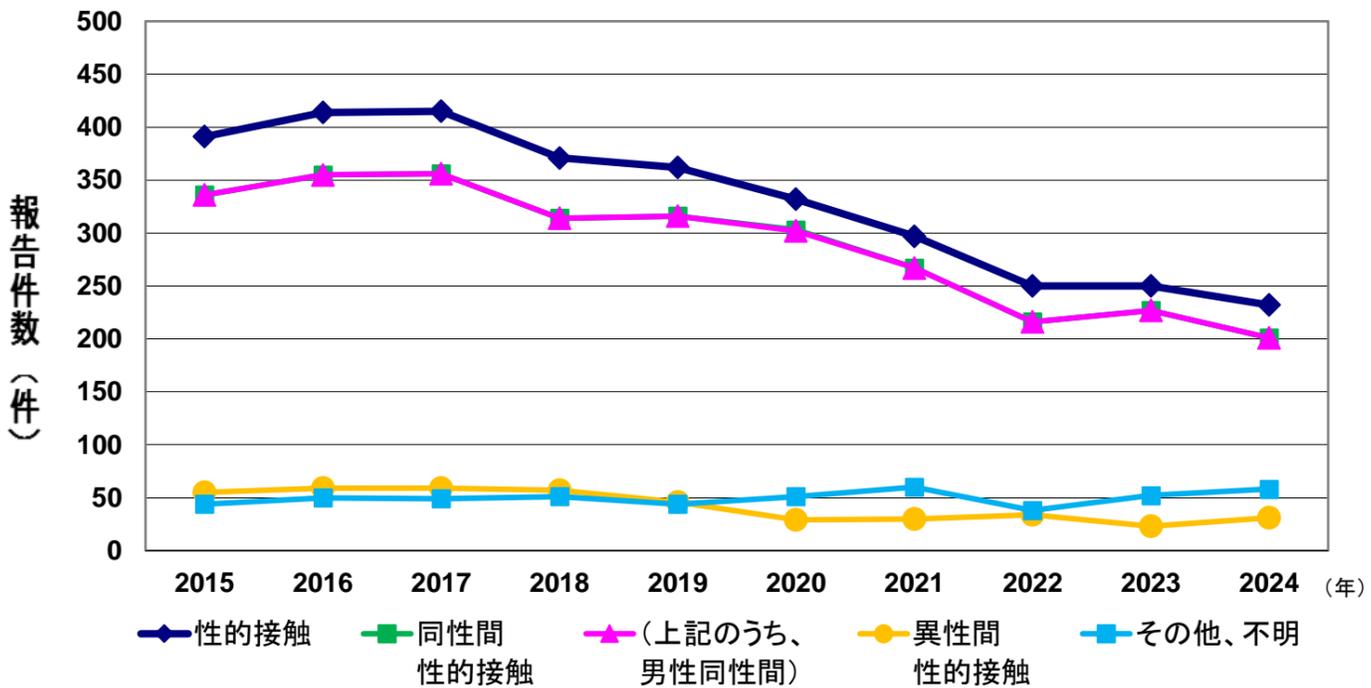
国籍別および性別では、日本国籍男性の新規報告数は前年より2件減少し231件、外国籍男性は18件減少し、47件であった。日本国籍女性は5件増加し7件、外国籍女性は3件増加し5件であった。

(図-3)

HIV感染者及びAIDS患者合計の推定感染経路別報告数の推移(過去10年)

ひとくち
×E

図-3の「その他、不明」には、感染経路が不明や、母子感染、静注薬物使用の可能性のある場合などが含まれます。



※同性間性的接触に両性間性的接触を含む。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
性的接触	391	414	415	371	362	332	297	250	250	232
	89.9%	89.2%	89.4%	87.9%	89.2%	86.7%	83.2%	86.8%	82.8%	80.0%
同性間性的接触	336	355	356	314	316	303	267	216	227	201
	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	79.1%	74.8%	75.0%	75.2%	69.3%
(上記のうち、男性同性間)	336	355	356	314	316	302	267	216	227	201
	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	78.9%	74.8%	75.0%	75.2%	69.3%
異性間性的接触	55	59	59	57	46	29	30	34	23	31
	12.6%	12.7%	12.7%	13.5%	11.3%	7.6%	8.4%	11.8%	7.6%	10.7%
その他、不明	44	50	49	51	44	51	60	38	52	58
	10.1%	10.8%	10.6%	12.1%	10.8%	13.3%	16.8%	13.2%	17.2%	20.0%
合計	435	464	464	422	406	383	357	288	302	290

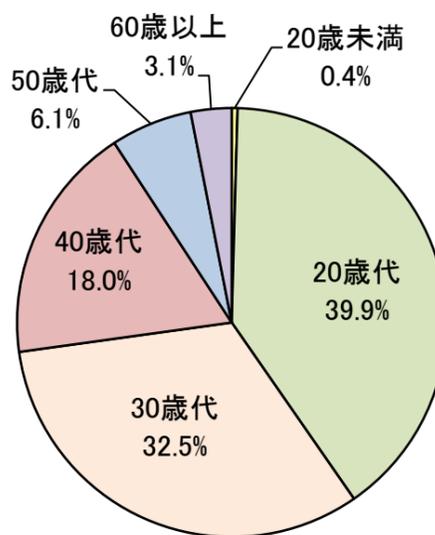
推定感染経路別では、性的接触が232件で全体の80.0%を占めた。男性同性間性的接触は前年より26件減少し、201件で69.3%だった。異性間性的接触は昨年より8件増加し、31件で10.7%だった。

(図-4)

HIV感染者及びAIDS患者の年代別割合(2024年)

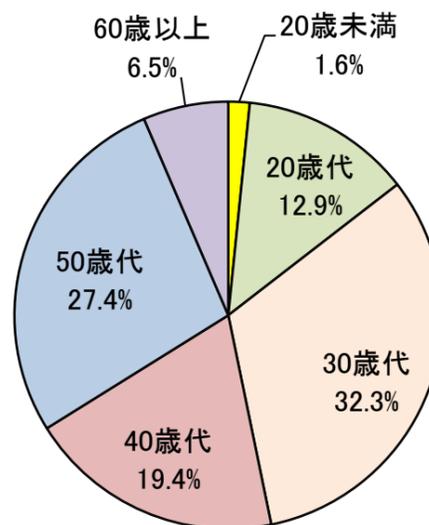
(1) HIV感染者

	HIV(件)
20歳未満	1
20歳代	91
30歳代	74
40歳代	41
50歳代	14
60歳以上	7
合計	228



(2) AIDS患者

	AIDS(件)
20歳未満	1
20歳代	8
30歳代	20
40歳代	12
50歳代	17
60歳以上	4
合計	62



HIV感染者の年代別新規報告数は、20歳代(91件)、30歳代(74件)、40歳代(41件)が多かった。AIDS患者の新規報告数は、30歳代(20件)、50歳代(17件)、40歳代(12件)の順が多かった。また、60歳以上も4件報告があった。
HIV感染者は20歳代から30歳代が全体の約7割、AIDS患者は30歳代から50歳代が全体の8割弱であった。

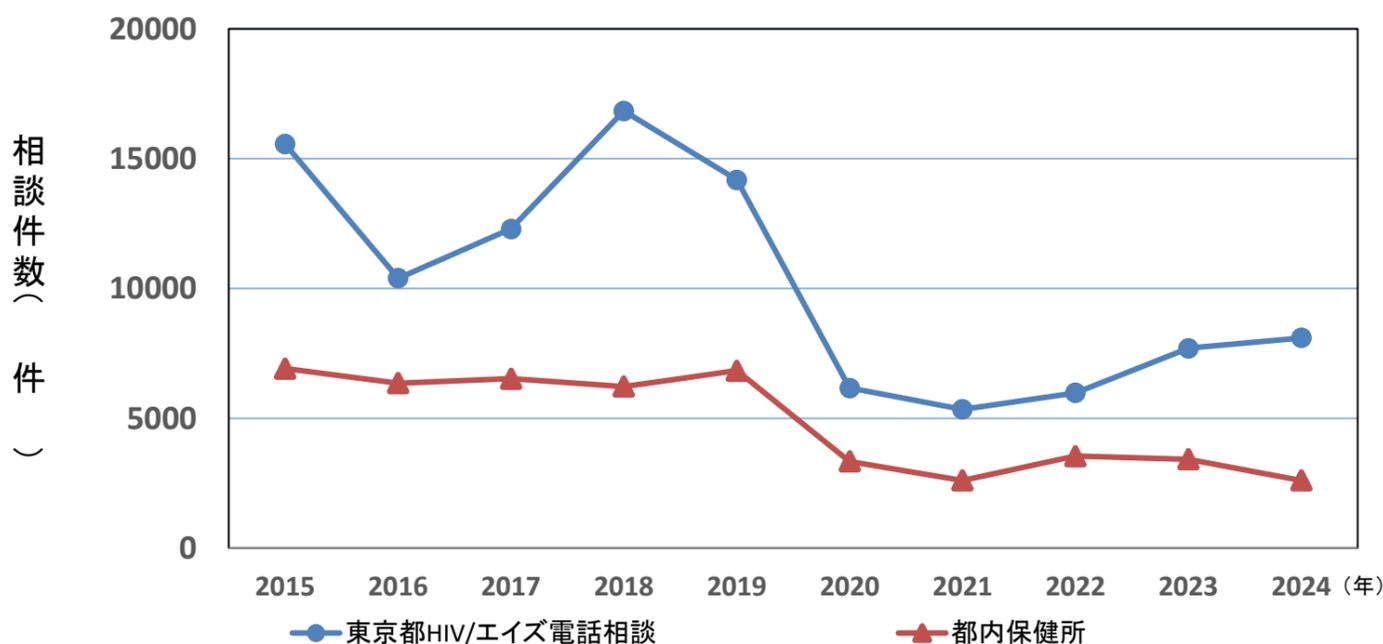
2 保健所等における相談・検査体制

(図-5)

電話相談件数の推移(過去10年)

ひとくちメモ

東京都HIV/エイズ電話相談:
03-3227-3335
平日: 正午~21時
土日祝: 14時~17時
HIV/エイズに関する感染不安や予防などの相談に応じています。

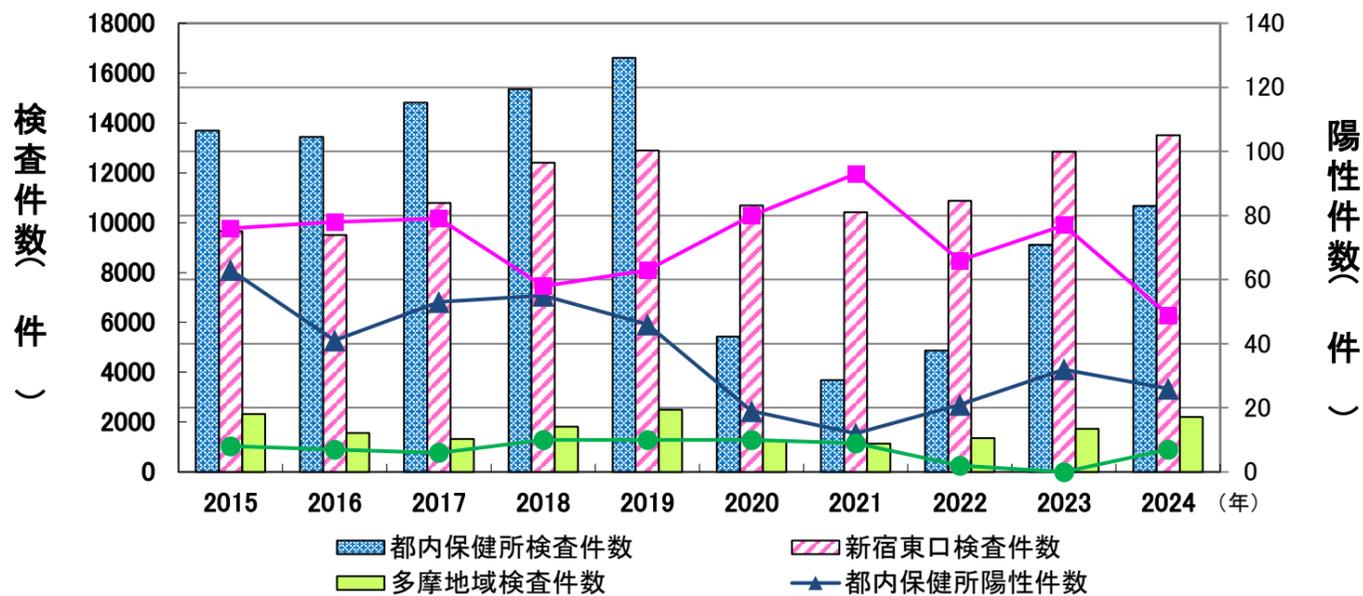


	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京都HIV/エイズ電話相談	15,555	10,389	12,293	16,836	14,181	6,167	5,342	5,974	7,695	8,099
都内保健所	6,915	6,352	6,525	6,220	6,836	3,340	2,601	3,539	3,415	2,604
合計	22,470	16,741	18,818	23,056	21,017	9,507	7,943	9,513	11,110	10,703

HIV/エイズに関する電話相談は、2019年の2万件以降、新型コロナウイルスの影響もあり、2022年までは1万件を下回っていたが、2023年は1万件まで増え、2024年は10,703件だった。

(図-6)

HIV検査件数
及び陽性件数
の推移

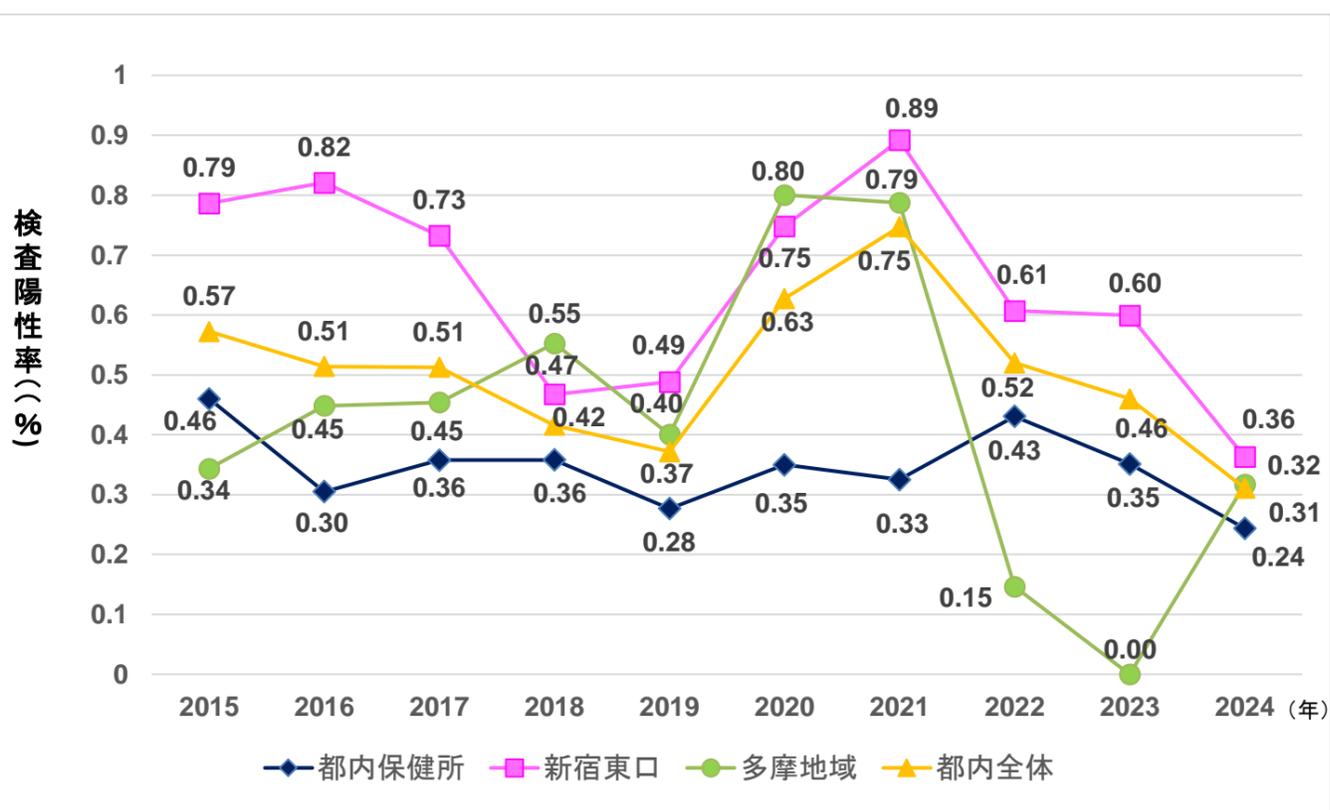


		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
検査件数	都内保健所	13,694	13,446	14,814	15,358	16,621	5,430	3,689	4,877	9,110	10,669
	新宿東口	9,662	9,501	10,785	12,408	12,897	10,691	10,427	10,870	12,846	13,501
	多摩地域	2,328	1,561	1,321	1,810	2,498	1,249	1,143	1,364	1,737	2,207
検査件数合計		25,684	24,508	26,920	29,576	32,016	17,370	15,259	17,111	23,693	26,377
陽性件数	都内保健所	63	41	53	55	46	19	12	21	32	26
	新宿東口	76	78	79	58	63	80	93	66	77	49
	多摩地域	8	7	6	10	10	10	9	2	0	7
陽性件数合計		147	126	138	123	119	109	114	89	109	82

検査件数合計は、2020～2023年は、新型コロナウイルスの影響による保健所等での検査の休止、縮小により、検査数が減少した。2024年は都内保健所1,559件増加、新宿東口655件増加、多摩地域検査・相談室は470件増加した。全体陽性件数は前年より27件減少し82件だった。

(図-7)

HIV検査陽
性率の推移
(過去10年)

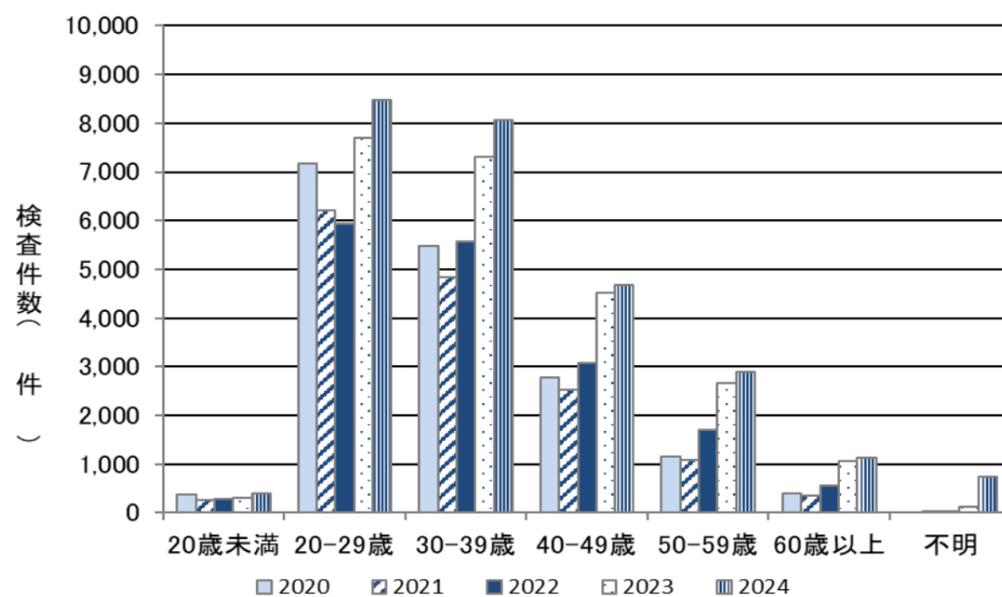


陽性率は、都内保健所は0.24%、新宿東口は0.36%、都内全体は0.31%と前年より減少している。多摩地域は前年は0%だったが、2024年は0.32%だった。

(図-8)

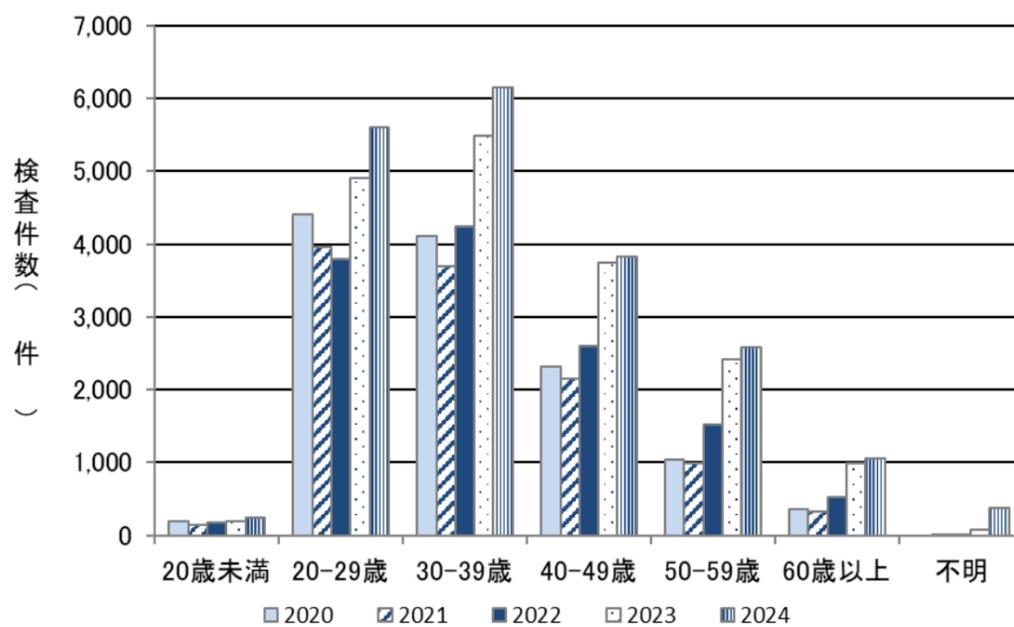
年代別HIV検査件数の推移
(過去5年)

(1)全体



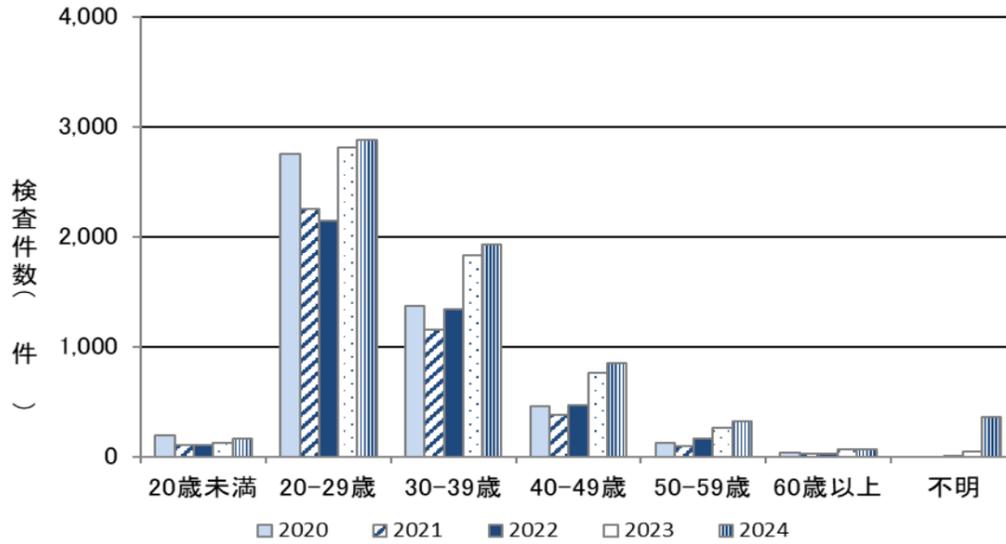
	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2020	385	7,162	5,487	2,777	1,160	399	0
2021	254	6,207	4,842	2,526	1,085	342	3
2022	274	5,940	5,579	3,071	1,691	550	6
2023	306	7,707	7,318	4,511	2,674	1,054	123
2024	398	8,482	8,071	4,667	2,903	1,123	733

(2)男性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2020	190	4,407	4,116	2,320	1,042	367	0
2021	147	3,955	3,690	2,144	987	322	3
2022	170	3,796	4,243	2,607	1,525	527	5
2023	187	4,902	5,491	3,751	2,410	991	77
2024	238	5,602	6,149	3,821	2,585	1,060	371

(3)女性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2020	195	2,755	1,371	457	118	32	0
2021	107	2,252	1,152	382	98	20	0
2022	104	2,144	1,336	464	166	23	1
2023	119	2,805	1,827	760	264	63	46
2024	160	2,880	1,922	846	318	63	362

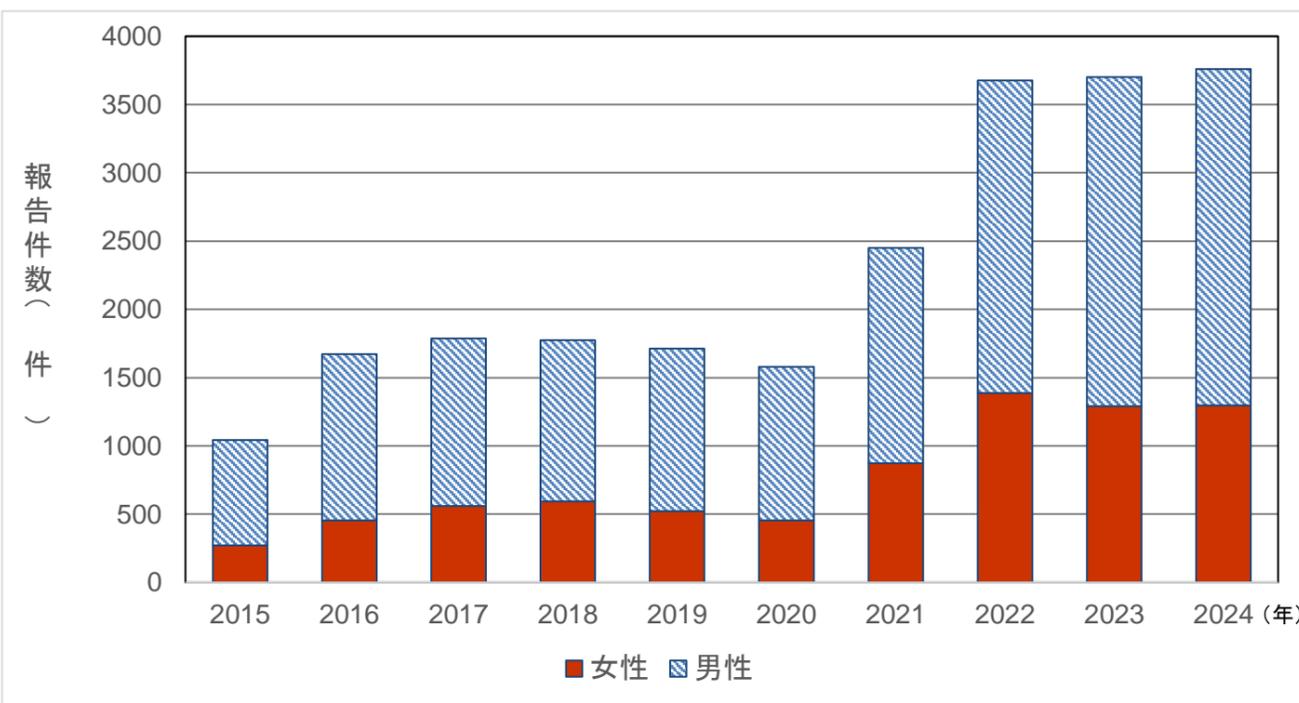
年代別のHIV検査件数は、男女共に20～30歳代が多く、感染リスクのある年齢層が受検している。一方、60歳以上の高齢の受検数も年々増えている。

3 東京都の梅毒の発生動向

(図-9)

梅毒の患者報告数の推移(過去10年)

梅毒とは?
梅毒トスピネーマというらせん状の細菌による感染症です。性行為で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。昔の病気と思われがちですが、近年患者数が増加しています。治療をしなければ、発疹やただれなどが出てきたり消えたりしている間に、病気が進行してしまいます。



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
男性	773	1,218	1,229	1,180	1,189	1,125	1,577	2,291	2,409	2,462
女性	271	455	559	595	523	454	874	1,386	1,292	1,298
合計	1,044	1,673	1,788	1,775	1,712	1,579	2,451	3,677	3,701	3,760

—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

梅毒の患者報告数は、3,760件で、前年より59件増加し、4年連続で増加している。男女別に見ると、男性は53件、女性は6件増加した。

(図-10)

梅毒の推定感染経路別報告数の推移
(過去10年)

梅毒の特徴①

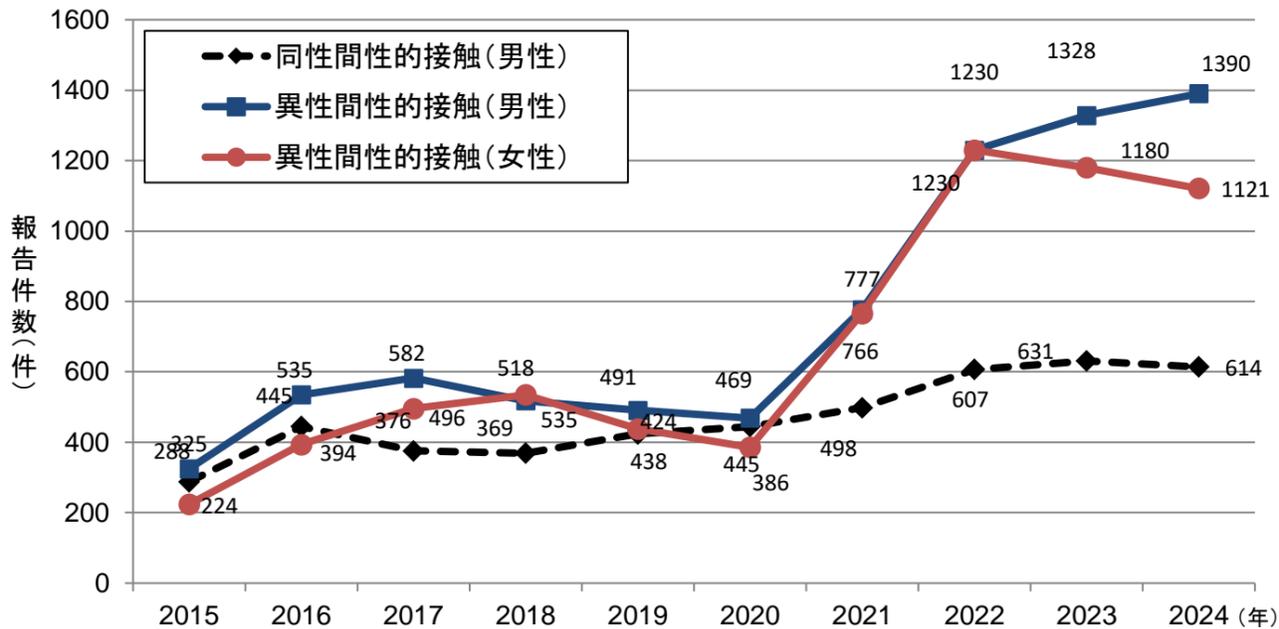
オーラルセックスでも感染します。

症状がなかったり、皮膚に症状がでて痛みやかゆみがないことがあります。

症状が自然と消え、治ったと思ってしまうこともあります。

免疫ができないので、治療し、完治しても何度も感染します。

症状がなくてもパートナーを感染させることもあります。



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

※このグラフには、「両性間性的接触」が推定感染経路の場合は含まれていない。

異性間性的接触が多い状況が続いており、男性は1,390件と前年より62件増加したが、女性は1,121件と前年より59件減少した。

(図-11)

梅毒の男女別・年齢別患者報告数の推移
(過去5年)

梅毒の特徴②

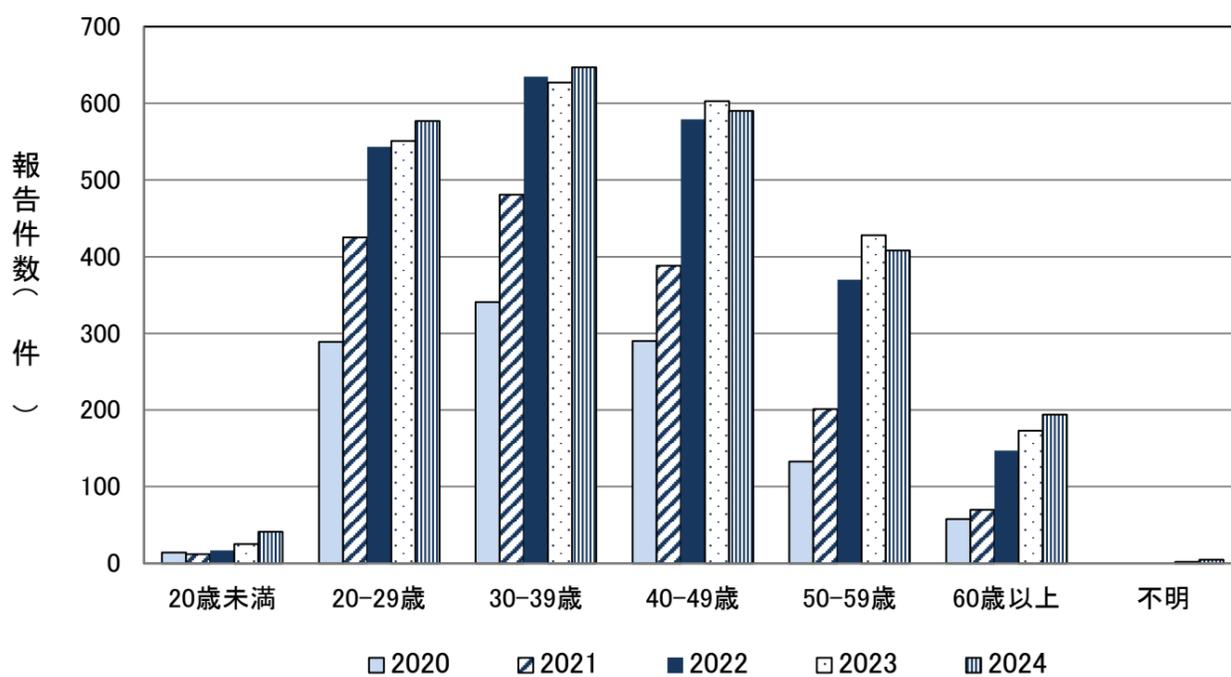
感染しているかどうかは検査でわかります。

パートナーも梅毒検査を受けましょう。

症状があるときはすぐに医療機関を受診しましょう。

予防には、コンドームの適切な使用が有効です。

(1) 男性

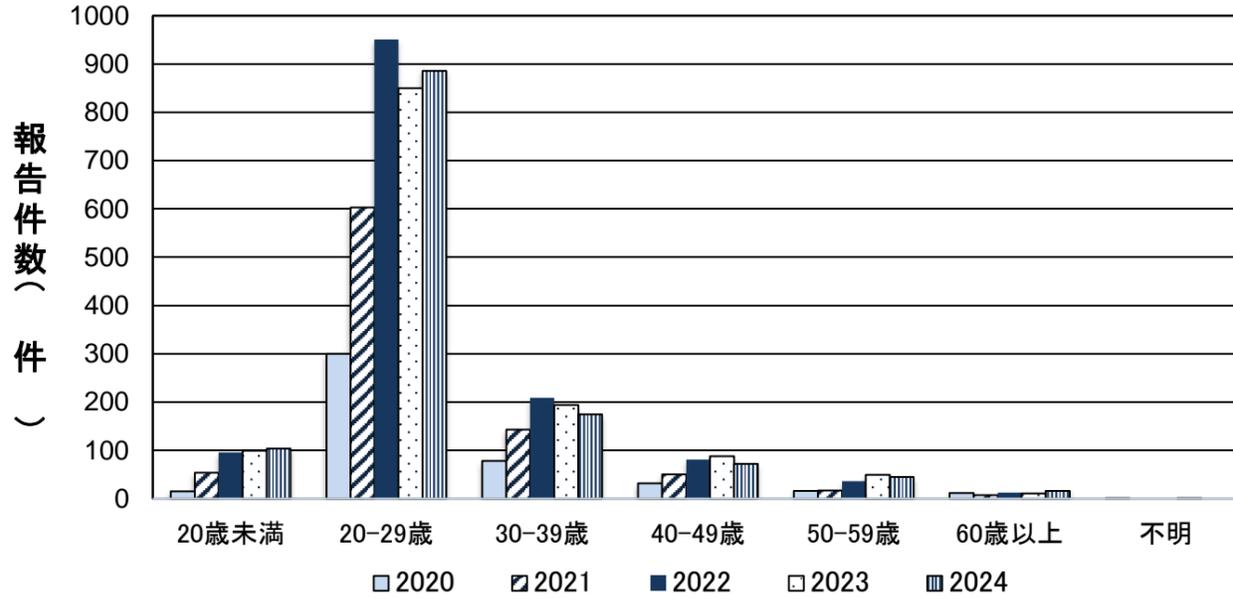


	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2020	14	289	341	290	133	58	0
2021	12	425	481	388	201	70	0
2022	17	543	635	579	370	147	0
2023	25	551	627	603	428	173	2
2024	41	577	647	590	408	194	5

梅毒の特徴③

女性が感染し治療しないていると、妊娠した際に、お腹の赤ちゃんにも感染することがあります。

(2)女性



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

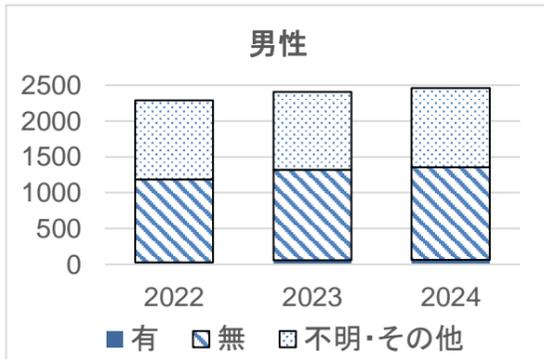
	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2020	15	300	78	32	16	12	1
2021	54	603	143	50	17	7	0
2022	96	951	209	81	36	13	0
2023	99	850	194	88	49	11	1
2024	104	886	175	72	45	16	0

男女別報告件数は、男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多かった。年齢別の年次推移は、男性は40歳代と50歳代以外の年齢層で増え、女性は20歳未満、20歳代、60歳以上で増えた。

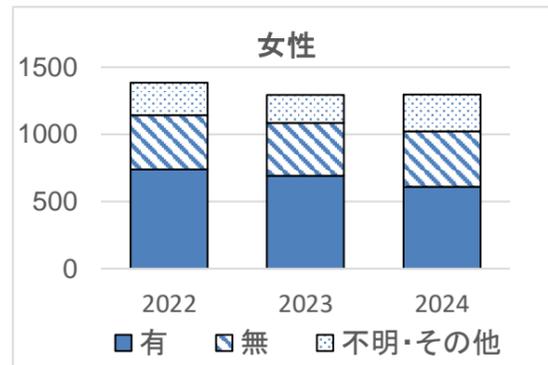
(図-12)

梅毒患者の男女別性風俗産業(直近6か月)従事歴(過去3年)

報告件数(件)

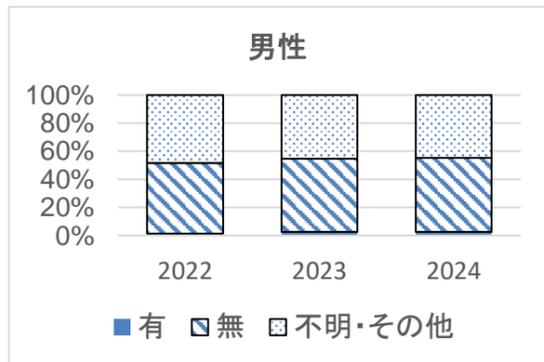


	2022	2023	2024
有	29	60	63
無	1,158	1,260	1,296
不明・その他	1,104	1,089	1,103

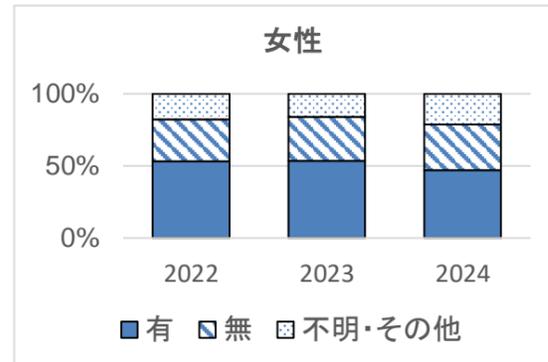


	2022	2023	2024
有	739	693	610
無	404	391	413
不明・その他	243	208	275

割合(%)



	2022	2023	2024
有	1.3%	2.5%	2.6%
無	50.5%	52.3%	52.6%
不明・その他	48.2%	45.2%	44.8%



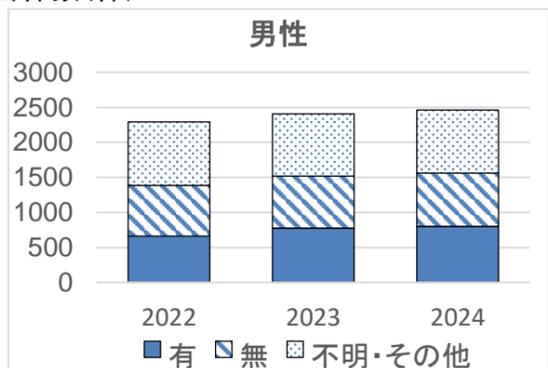
	2022	2023	2024
有	53.3%	53.6%	47.0%
無	29.1%	30.3%	31.8%
不明・その他	17.6%	16.1%	21.2%

女性の性風俗産業の従事歴有は、2024年は47%と減少した。男性は、従事歴有が2.6%と2023年とほぼ変わらず、少なかった。不明・その他は44.8%と多い。

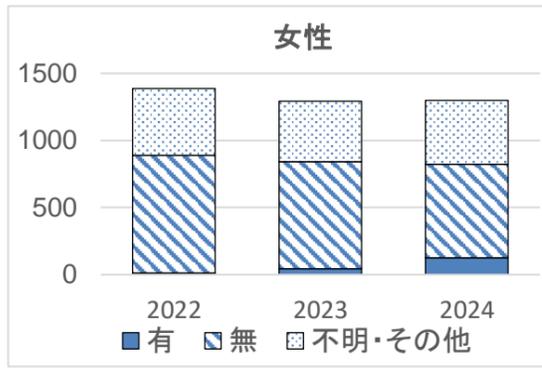
(図-13)

梅毒患者の男女別性風俗産業(直近6か月)利用歴(過去3年)

報告件数(件)

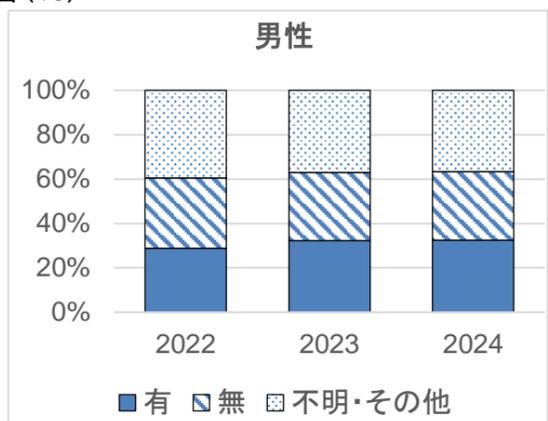


	2022	2023	2024
有	663	777	798
無	721	741	762
不明・その他	907	891	902

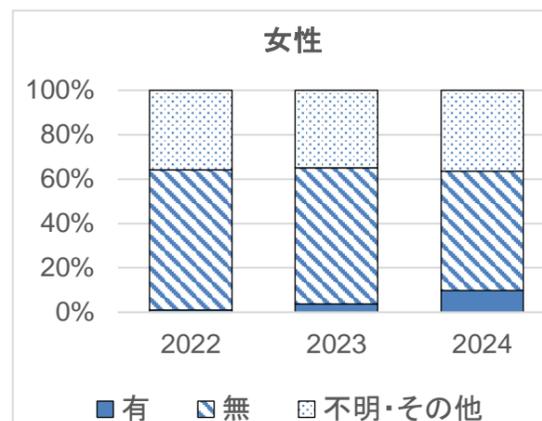


	2022	2023	2024
有	14	46	127
無	876	795	697
不明・その他	496	451	474

割合(%)



	2022	2023	2024
有	28.9%	32.3%	32.4%
無	31.5%	30.8%	31.0%
不明・その他	39.6%	37.0%	36.6%



	2022	2023	2024
有	1.0%	3.6%	9.8%
無	63.2%	61.5%	53.7%
不明・その他	35.8%	34.9%	36.5%

男性の性風俗産業の利用歴有は、32.4%、不明・その他は36.6%であった。女性の利用歴有は、9.8%と増えている。不明・その他も36.5%と変わらず多い。

(図-14)

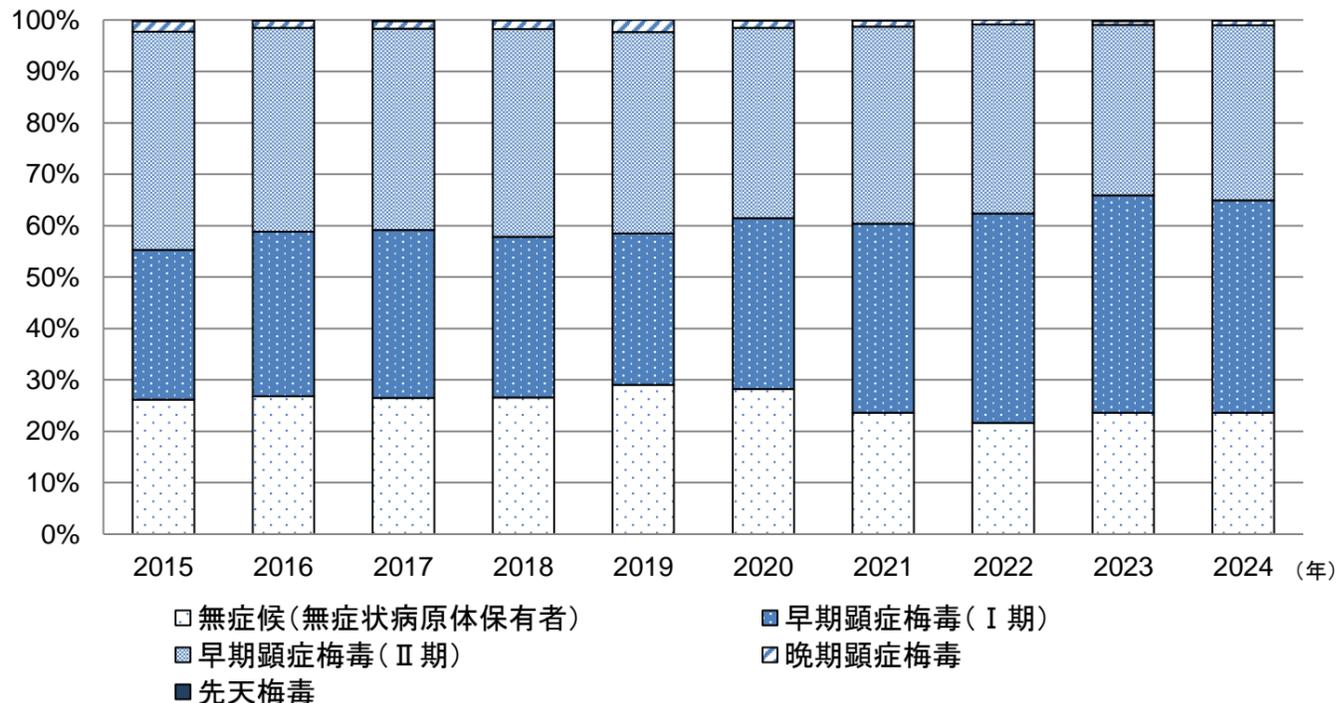
梅毒の病型別患者報告数の推移(過去10年)

梅毒の症状

無症候：症状は現れていないが、梅毒血清反応が陽性。

早期顕症梅毒(Ⅰ期)：感染した場所に、しこり・ただれ等の症状が現れている状態。

早期顕症梅毒(Ⅱ期)：Ⅰ期の症状が消えた後、手足・全身などに発疹の症状が現れている状態。



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
無症候(無症状病原体保有者)	273	449	474	472	497	445	578	797	875	887
早期顕症梅毒(Ⅰ期)	304	535	584	555	504	525	903	1,496	1,564	1,554
早期顕症梅毒(Ⅱ期)	443	664	700	717	671	585	939	1,351	1,228	1,280
晚期顕症梅毒	22	23	26	30	40	22	28	33	25	34
先天梅毒	2	2	4	1	0	2	3	0	9	5

2024年は無症候、Ⅱ期、晩期の報告数は2023年と比較して増加した。Ⅰ期は前年より10件減り1554件であった。先天梅毒は前年より4件減り5件であった。

《梅毒情報》

東京都 性感染症 検索

東京都性感染症ナビ

東京都の梅毒の報告数や検査等の体制、イベントなどの最新情報を掲載しています。
また、eラーニングやマンガで梅毒について分かりやすく学ぶことができます。
<https://www.hokeniryo1.metro.tokyo.lg.jp/seikansensho/index.html>



東京都保健医療局「梅毒について」

梅毒の症状や特徴、気をつけたいことについて掲載しています。
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/info/syphilis/syphilis>



東京都保健医療局「性感染症ってどんな病気？」



《検査は匿名・無料》

★東京都新宿東口検査・相談室 HIV通常検査(予約制)

HIV検査と同時に梅毒検査も実施しています。

所在地: 新宿区歌舞伎町2-46-3 SIL新宿ビル2階
開室時間: 月～金曜日(祝日を除く) 15:00～20:00
土・日曜日(祝日を除く) 13:00～17:00
※毎週水曜日は、女性のための検査日です。
※6/1～6/30及び11/16～12/15は、希望者には性器クラミジア・淋菌同時検査を実施します。
(尿検査のため、検査日の前日までに尿採取セットの受け取りが必要)



★東京都多摩地域検査・相談室 HIV即日検査(予約制)

HIV検査と同時に梅毒検査も実施しています。

所在地: 立川市柴崎町2-21-19 東京都立川福祉保健庁舎内2階
検査受付時間: 土曜日・日曜日(祝日を除く) 9:50～11:00
問い合わせ先 090-2537-2906 (平日:9:30～17:00、土・日9:30～15:00)
※判定保留の場合は原則1週間後に検査結果を通知します。



★東京都HIV等検査予約サイト

新宿東口検査・相談室、多摩地域検査・相談室のほか、多摩地域の都保健所
(多摩立川保健所、多摩府中保健所、多摩小平保健所)でのHIV検査等をWebで予約できます。
<https://yoyaku.metro.tokyo.lg.jp/>



★東京都HIV等検査予約センター

新宿東口検査・相談室、多摩地域検査・相談室のほか、多摩地域の都保健所の
HIV検査等を電話で予約できます。
電話番号: 050-3801-5309 (10:00～20:00 ※年末年始除く)



★東京都HIV検査情報Web

都内の保健所、検査・相談室で受けられるHIV検査や他の性感染症検査の
情報が載っています。
<https://tokyo-kensa.metro.tokyo.lg.jp/>

★東京都HIV/エイズ電話相談

HIV感染の不安や予防方法についての相談、HIV検査に関する情報提供
電話番号: 03-3227-3335 (月～金: 12:00～21:00、土・日・祝日: 14:00～17:00 ※年末年始除く)

★各保健所での相談・検査

HIV/エイズ、梅毒等の性感染症に関する病気の相談、各保健所で実施している検査についての
お問い合わせは各保健所へ。

【発行】東京都保健医療局感染症対策部防疫課エイズ対策担当
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487